

令和6年度事業計画

1 令和6年度事業の基本方針について

新型コロナは落ち着いてきており、経済活動も活発化してきたことから、本協会の目的である「県物産」の紹介、宣伝、あっせん等については、より積極的に事業活動を展開していくとともに、品質の向上と新商品の開発を推進し、「県物産」のPRと販路拡大に取り組んでいくこととする。

このため、定款で定める次の3事業を展開し、県物産の一層の振興を図っていく。

●定款に定める3事業の展開

◆物産展等開催事業

山口県物産の県内外での展示販売を通じて認知度を高めていくとともに、ウェブサイト（ECサイト）を活用して商品掲載・販売を行い、県物産の一層の販路拡大・開拓を図る。

◆情報収集・提供事業

市場ニーズや動向に関わる様々な情報の収集を行い、役に立つ情報の発信・提供に努めるとともに、県外の有力バイヤー等関係者の招聘による商談や懇談を行う。

◆即売事業

販売拠点である「おいでませ山口館」を中心に、首都圏や近畿圏など大都市において即売事業を行い、県物産の魅力発信と認知度の向上を図る。

2 令和6年度事業の概要について

昨年、新型コロナが5類移行となったことから、旅行需要の増大やインバウンドによる観光地での賑わいをはじめ、様々な分野で経済活動が活発となってきており、物産展がいろいろなところで開催されるようになってきた。この様な状況を捉え、様々な物産展に出展するなどして県物産のPRによる認知度の向上や販路拡大に積極的に取り組んでいくこととする。

また、県から、新たにおいでませ山口館を活用した首都圏関係人口創出事業や首都圏における新たな物産フェア事業を受託する見込みであり、この事業の活用も図っていく。

(1) 物産展等開催事業

本協会主催や出展依頼など物産展等が増加しており、これを活用した展示即売を行う。また、県では、新たに百貨店や繁華街での物産展も計画しており、この事業の実施も行っていく。更に、大手企業と連携した企業内催事等への出展も引き続き行うなど、様々な機会を捉えて県物産の販路拡大に努める。

ア 県内外イベント等への出展（別掲実施計画（予定）参照）

① 県外イベント等

○山口県フェア

2月 エコ・ピア（千葉県市川市等）

未定 東京の百貨店や繁華街での物産展

○期間限定大阪アンテナショップ

2月 阪急梅田駅構内（大阪市）

② 県内イベント等

○やまぐち地産・地消フェア

6月6日～9日、及び10月 フジグラン宇部（宇部市）

○まるごと山口コレクション

12月 プラグスマーケット下松店（下松市）

○やまぐち名産品フェア

1月上旬 おのだサンパーク（山陽小野田市）

イ 農林水産関係機関との連携

従前から農林水産関係機関とは物産展や商談会等で連携を図ってきており、特に「おいでませ山口館」では、「はなっこりー」や「萩たまげなす」、「いちご」など季節野菜等を新たに取り扱うなど農水産物等の販売での協力が進んでいる。これら農水産物の好評と相まって、山口県物産は、今後更に注目されるものと思われる。今後とも、この協力関係をより進め、首都圏など大都市でのPRと販売を一層進めていく。また、海外に向けた販路拡大についても連携しながら取り組んでいく。

○物産展等における幅広い農林水産物の品揃え

○6次・農商工連携の新たな商材の発掘・販売

ウ ウェブサイトの活用

新型コロナの落ち着いたにより、リアル店舗等による対面販売が活発化しているが、ウェブサイト（ECサイト）によるネット販売も、取り引きの重要な手段であり、ECサイトの役割は、今後も変わらないものと考えられる。

本協会でも、通年ではないが、5年度は年に6回、期間限定のECサイトを開設し、季節ごとのフェアや各市町フェア、各種イベントと連携した商品の掲載・販売を行ってきた。

県では、6年度にECサイトの再構築を含めた新たなシステムの作成を計画しており、利用者の利便性向上や機能の充実が図られたECサイトにより、販売が強化されるものと期待され、県物産のPRや販路拡大に繋がるよう一層取り組んでいく。

(2) 情報収集・提供事業

SNSにより様々な情報が行政機関や関係団体等からだけでなくいろいろなどころから発信されている。本県に関わることが国内だけでなく世界から発信されており、NYタイムズより「2024年に行くべき52カ所」に山口市が選

ばれた。山口県全体への波及も予想され、今後、来県客が増えることが期待されることから、協会としてもその動向を注視しながら、県物産のPR・販売向上に繋がる情報を発信・提供していく。

また、「オールやまぐち！県産品売り込み会議」や「やまぐちの農林水産物需要拡大会議」等と積極的に連携を深め、県物産のPRと需要拡大に繋げる。

ア 商談会等

東京や大阪など大都市圏での販路拡大や、県物産の魅力向上や新商品の開発に繋がるよう、県外の有力バイヤー等やおいでませ山口館館長による商談や懇談等に取り組む。

イ ホームページやカタログによる山口県物産の紹介

県物産を広く紹介するためホームページ等を活用するとともに、ECサイトへの掲載や物産展等でのカタログ冊子の配布など様々な機会を捉えて、広く情報の提供に努める。

(3) 即売事業（おいでませ山口館）

おいでませ山口館は、新型コロナが落ち着いてきたこともあり、来店者が増加し、5年度の売上も前年度を上回る見通しとなった。

館内イベントでは、ふく福FUKUフェアや新酒・酒粕特集などのほか、県内市町との連携により5年度は8市町とそれぞれフェアを開催し、来店者や売上の増加に繋がった。

また、館外催事では、防長倶楽部総会など従来の出展に加え、乃木神社境内での「にぎわいまつり」への出展や警視庁売店での「やまぐちマルシェ」物産展の開催など新たな出展依頼があり、県物産のPRや売上に貢献した。

6年度においても、引き続き、市町フェアなど館内催事の実施を行い、また、館外催事についても、参議院附属展示会場での山口フェア展など可能な限り新たな物産展に応じ、売上の増加を図っていく。

一方、本県唯一のアンテナショップであるおいでませ山口館は、展示即売事業の中核拠点であるだけでなく、観光や移住も含めた幅広い情報交流拠点の役割を担っている。

県では、本県の人口減少克服の鍵を握る関係人口の創出に向け、首都圏で本県に興味を抱く層の新たな掘り起こしのため、おいでませ山口館を関係人口の入り口拠点として位置付け、リアルとオンライン両面から活用することを考えている。6年度は、これらの事業の実施が計画されており、山口館の機能が様々な面で強化されることから、これらを活用して、集客拡大に結び付け、販売力の向上に繋げていく。

更にフェイスブックやインスタグラムなどSNSの活用を高めていくとともに、県農林水産部など関係団体等との連携を強化し、一層の効率的な運営と魅力的な売り場づくりを進め、県物産のPRや販路拡大に取り組んでいく。

「おいでませ山口館」の来館者数等の実績

- 令和5年度・4年度・3年度の来館者数及び売上額（2月末現在）

（単位：来館者数(人) 売上額(千円)）

令和5年度		令和4年度		令和3年度	
来館者数	売上額	来館者数	売上額	来館者数	売上額
198,561	136,522	195,714	130,648	144,598	110,517

- 令和5年度 来館者数・売上額の前年度・前々年度対比（2月末現在）

（単位：%）

令和4年度対比		令和3年度対比	
来館者数	売上額	来館者数	売上額
101.5	104.5	137.3	123.5

3 協会会員の加入促進

定款に定める協会の活動の目的を達成するためには、現会員の物産を紹介し販路拡大を図ることはもちろんであるが、新たな会員の加入に努め、商材の発掘や開発を一層促進する必要がある。

物産展への出展や「おいでませ山口館」への販売を契機に、会員加入の一層の促進を図っていく。

【会員数の推移】

（令和6年3月10日現在）

年度	菓子	水産	農産	民芸	その他	特別会員	合計
26	51	87	94	23	8	20	283
27	56	90	101	24	8	20	299
28	61	96	107	24	8	21	317
29	62	91	114	27	12	21	327
30	59	90	116	28	12	21	326
元	56	89	112	29	13	21	320
2	49	83	101	23	11	21	288
3	48	83	99	26	13	21	290
4	45	80	99	26	13	20	283
5	46	79	101	26	15	20	287